

適期播種と適切な防除で安定多収につなげましょう！

大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬です。適期播種が初期生育の確保、ひいては収量の確保につながります。適期内に播種が完了するよう作業計画を立て、作業できる日にどんどん播種作業を進めましょう。

1. 播種前の準備はしっかりと

(1) 播種量

播種量は、目標とする栽植本数によって変わるため、下表を参考に設定しましょう。

表1 播種量の目安

品種	播種量 (kg/10a) ※	栽植本数 (本/10a)	畝間×株間・1株本数
シュウリュウ	4.4～5.1	12000 ～ 14000	7 5 cm×2 0～1 7 cm ・2本
エンレイ	3.5～4.0		
里のほほえみ	4.7～5.5		

※想定した百粒重：シュウリュウ33g、エンレイ26g、里のほほえみ35g、出芽率90％

- ◆目安どおりの播種量になるよう、播種前に必ず播種機を調整しましょう。
- ◆播種が適期よりも遅くなる場合は、生育量を確保するために目標栽植本数を多くします。（15,000本/10a、畦間75cm×株間16cm程度）

(2) 種子消毒

ネキリムシ類による被害を防ぐため、適用のある薬剤で種子消毒をしましょう。
ネキリムシ類の成虫は広葉雑草等に産卵するため、薬剤防除だけでなく、圃場周辺の除草対策を徹底することも重要です。

表2 主な種子消毒薬剤と適用病害虫

適用病害虫 薬剤名	ネキリムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	タネバエ	紫斑病	茎疫病	苗立枯病	黒根腐病	鳥害
クルーザーFS30	○	○					
クルーザーMAXX	○	○	○	○	○	○	ハト キジバト
キヒゲン		○	○				ハト
キヒゲンR-2フロアブル		○	○		○		ハト カラス

2. ていねいな播種作業で苗立ちを揃えましょう

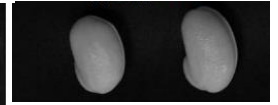
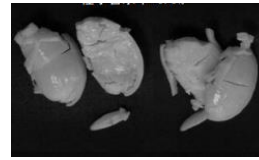
大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬です。播種が遅れると、開花までの生育期間が短くなり、分枝数や着莢数が十分に確保できません。そのため、生育量の確保には適期内の播種が重要となります。

✓湿害対策は十分に！

土壌中の水分が高まると、種子の発芽不良、腐敗などにより出芽率が低下します。特に乾燥状態の種子に多量の水分を与えると、急激な吸水に耐えられず種子が崩壊します。3～4日好天が続く日に播種しましょう。

種子含水率6.5%

種子含水率14.5%



品種：タチナガハ

図1 冠水処理による大豆種子の破壊
(農業技術61(9):391-395)

✓出芽安定のために、播種深度の基本は3 cm

播種深度が浅すぎると干ばつ時に出芽不良となります。反対に深すぎると湿害の発生が懸念されます。

播種深度の基本は3 cmとしますが、播種前後に降雨がなく、圃場の過乾燥が見込まれる場合にはやや深く(5 cm程度)します。

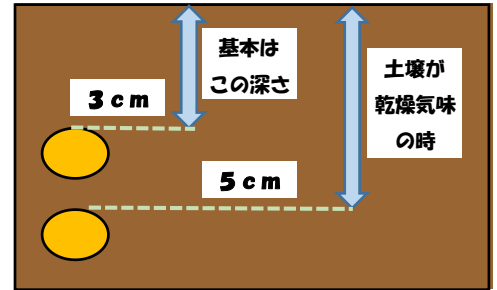


図2 播種深度の目安

3. 雑草防除のスタートダッシュ！土壌処理剤は播種後3日以内に

土壌処理剤の散布は、雑草の出芽を抑制するために必須です。問題となる雑草の草種に効果の高い薬剤を選定し、以下のことに注意して使用します。

✓圃場が乾燥している場合の除草剤散布

薬液が土壌に浸透するよう、十分な薬液を準備しましょう。

✓散布は天気予報を見て

降雨時または大雨前の使用は、効果の低化や薬害のおそれがあるので避けましょう。

✓除草剤の層を壊さない

土壌処理剤の散布後すぐに土を動かすと効果が劣るため、散布後2～3週間は中耕・培土を避けます。

◆噴霧器に詰まりがないか作業前・作業中に点検しましょう。

◆ドリフトによる他作物への薬害を防ぐため、散布時の水圧・風向き等に注意しましょう。

◆農薬を使用する際は、必ず農薬のラベル等を確認し、使用方法を遵守しましょう。

難防除雑草
に注意！！

帰化アサガオ類、アレチウリ等が圃場内に侵入・蔓延すると根絶は困難です。

圃場周辺で発見したら、必ず雑草の開花・結実前に手取りや非選択制茎葉処理剤で除去しましょう。



帰化アサガオ（左）アレチウリの葉（右）

農作業中の事故・熱中症を予防しましょう！

ヘルメット・シートベルトを着用
こまめな水分補給を

